



地球教室®

地球にやさしい未来を、みんなで。

未来につながる環境教育を

出張授業や体験型イベントなどを通して国内外の環境問題を身近に捉えてほしい、持続可能な未来のために行動する人に育ってほしい——。14年目を迎えた朝日新聞の環境教育プロジェクト「地球教室®」。今年も、学校・行政・企業が一体となって、子どもたちとともに様々な視点から地球環境について考えました。

2021年度の活動

2021 4月 オリジナル環境教材の製作・配布

5月 「かんきょう新聞」の募集

9月 環境教育イベントの開催

9月26日 かんきょう1日学校

2022 11月～1月 地球教室出張授業

2022 2月 「かんきょう新聞」の優秀作品を発表

参加賞① 参加賞②

応募総数 10,608 作品
子どもたちの優秀作品を本日より発表します。

▲21年度の参加賞は選べる2タイプ。
①苗木 ②材木加工時の木材でつくられた「環のはし」です。「環のはし」は500個ごとにプレゼントツリーとして国内の山林に1本植樹されます。

各協賛企業のテーマに沿った「かんきょう新聞」は夏休み・冬休みの宿題などに利用され、1万608作品の応募がありました。応募してくれた子どもたち全員に、参加賞をプレゼント。

独自の環境活動を展開する企業や環境問題の専門家、講師に招き、全国各地で様々な双方向型イベントを開催しました。
東京有楽町を配信会場としたイベントに、約60人のパネリストを含む、全国各地の小中学生の皆さんがオンラインで参加しました。記者のレクチャを受け、子どもたちは企業の環境活動や「かんきょう新聞」づくりのための取材にも挑戦しました。
環境活動に注力する企業と朝日新聞社の記者たちが全国の小学校など、7カ所で合同出張授業を開催、国内外の環境問題を伝えました。
▲出張授業の様子は次のページ(広告紙面)から

環境について学ぶなかで興味を持ったこと、考えたことを伝える「かんきょう新聞」の募集を開始しました。
独自の環境活動を展開する企業や環境問題の専門家、講師に招き、全国各地で様々な双方向型イベントを開催しました。
東京有楽町を配信会場としたイベントに、約60人のパネリストを含む、全国各地の小中学生の皆さんがオンラインで参加しました。記者のレクチャを受け、子どもたちは企業の環境活動や「かんきょう新聞」づくりのための取材にも挑戦しました。
環境活動に注力する企業と朝日新聞社の記者たちが全国の小学校など、7カ所で合同出張授業を開催、国内外の環境問題を伝えました。
▲出張授業の様子は次のページ(広告紙面)から

▲21年度の参加賞は選べる2タイプ。
①苗木 ②材木加工時の木材でつくられた「環のはし」です。「環のはし」は500個ごとにプレゼントツリーとして国内の山林に1本植樹されます。

取材をもとに「地球の現状」を伝える 朝日新聞記者の授業

エコ活動に取り組む企業とともに、記者7人が国内外の環境問題を解説しました。

ノーベル賞受賞の今こそ
2021年のノーベル物理学賞を、米プリンストン大学の真鍋淑郎さんが受賞されました。真鍋さんは温暖化予測研究の第一人者です。受賞で注目が集まった今こそ、科学的な温暖化対策が加速するよう期待しています。
小堀龍之

一人ひとりが日々できることを
最近、SDGs(※)という言葉をよく耳にします。私たちが地球でずっと暮らしているように世界共通で目指す目標のことです。目標達成のためには一人ひとりの努力が必要。日常でできる取り組みを一緒に考えていきましょう。
中村浩彦

世界各地の環境破壊を考える
地球温暖化の影響が世界各地に現れていることを、写真を見ていただきながら話しました。地面や海の水がどけて、家が傾いて住めなくなったり、ホッキョクグマがすむ場所が減ったり。ひどい大雨が増えているのも温暖化の影響があります。
神田明美

地球は全ての生き物のもの
自然とともに生きる——、地球上の生物は皆そうしているのに、人間だけが環境を壊しながら生きています。地球は人間だけのものではない。私たちは自然の恵みに生かされていることを忘れないでほしいです。
中山由美

主体的な行動を広げていく
環境問題は、一人ひとりが意識し、取り組むことが大切です。ただ、それだけでは足りません。授業を聞いた皆さんのなかから、温暖化を解決する方法や、ごみを減らす仕組み、自然を大切に暮らす方を広げるような人が出てくれば、うれしいです。
香取啓介

地球温暖化への危機意識を持つ
南太平洋の島国、ツバルの大臣は、水につかりながらのビデオメッセージで海面上昇の危機を世界に訴えました。日本も低い土地に多くの人々が住み、大雨が心配です。温暖化による変化に強い社会をつくることも大切です。
佐々木英輔

地球を救うのは君たちだ
地球の危機と聞いてもピンと来ないかもしれない。でも、地球温暖化や生物の絶滅、自然資源の減少は、人類の歴史にないスピードで進んでいる。危機を救うことができるのは君たちの世代であり、いまがラストチャンスだ。
石井 徹

※持続可能な開発目標

優秀学校賞も選出
多くの秀作をご応募いただいた高松市立栗林小学校(香川県)が受賞しました。

感染予防対策として、今年度もかんきょう1日学校と出張授業(一部)でオンライン授業を導入しました。

かんきょう新聞優秀作品

かんきょう新聞の優秀作品は、地球教室®ウェブサイトでも公開中

旭化成賞
「地球環境を守る!旭化成新聞」
八王子市立東浅川小学校(東京都) 5年 山崎世菜さん
旭化成が注力する三つの分野や、「あさひのいのちの森」づくりなどを説明。冷暖房の使用回数を減らす実験を自ら行い、地球温暖化を防ぐためにできることを報告した。

ロッテ賞
「子どもの恋人 ロッテ新聞」
〇〇〇〇横浜雙葉小学校(神奈川県) 5年 成川碧泉さん
ロッテの「フェアカカオプロジェクト」を紹介。カカオ豆の生産地における児童労働問題に対する支援活動や、自分が商品を選ぶ時の意識の変化を伝えた。

ナブテスコ賞
「安心・安全・快適の金メダル ナブテスコ新聞」
ホライゾン学園仙台小学校(宮城県) 5年 八月朝日葵香さん
ナブテスコの技術でつくられた製品が、鉄道や飛行機などに利用されていることを解説。タイでの植樹活動など、環境に配慮した取り組みも説明した。

UACJ賞
「株式会社UACJ ~かんきょうを守ろう新聞」
吹田市立千里丘北小学校(大阪府) 5年 小島楓菜さん
UACJによってつくられるアルミニウムが身近なものに活用されていることを説明。リサイクルの流れとともに、他の金属よりも優れているアルミニウムの特性を紹介した。

ESD活動支援センター賞
「御坊川新聞」
高松市立栗林小学校(香川県) 4年 原 穂乃佳さん
御坊川の特徴を調べ、100年前と現在のBOD(生物化学的酸素要求量)を紹介。水道水や石けん水などの水質と比べて、川をきれいにする方法を考察した。

●旭化成からのメッセージ
見出しにインパクトがあり、そこから続く内容の構成も分かりやすく立ち止まることなく読み進められます。また、地球温暖化に着目し、「私達に出来ること」について実験を通して伝えている点も、大変工夫が見られました。

●ロッテからのメッセージ
今ある課題を自分の周りに置き換えて、どのように行動したら良いかを考えた紙面が年々増えてきているのを感じます。今回のロッテ賞は、テーマが今目的で訴求したいことが明確でした。内容も分かりやすく伝わってきた点を評価しました。

●ナブテスコからのメッセージ
ナブテスコの技術や製品が暮らしにどう役立っているかだけではなく、環境への取り組みについても分かりやすくまとめてくれました。特にカラフルなイラストによる表現や、紙面全体を通じたレイアウトの工夫が素晴らしかったです。

●UACJからのメッセージ
環境課題解決にアルミニウムがどのように貢献できるか、UACJの取り組みを分かりやすくまとめることと、自分たちができることを考え、かみ砕いて発信してくれました。思いが伝わり、読んだ人が自分も行動しようと思えるような作品です。

●ESD活動支援センターからのメッセージ
学校の近くを流れている御坊川の歴史と水質を調べて分かったことを、グラフや絵やクイズを使って分かりやすい記事にしています。そして、小学生ができることを呼びかけていて、とてもいい作品です。